

平成 31 年 4 月 8 日

## 平成 31 年度始業式 校長あいさつ

新しい年度になりました。次の段階に踏み出すために、来し方を見つめる必要があろうかと思いますが、この年度の切り替え、新しい年次でのスタートをそれに充てるのも有効です。ここにいる皆さんは、本校でそれぞれ次の年次に進みました。本校は単位制ですので、学年制の高校のようにいわゆる進級の概念はありませんが、おめでとうございますと申し上げたいと思います。それから、春休み中、大きな事故もなく過ごすことができ大変うれしく思います。

さて、春休みに入る前、皆さんには「力耕不吾欺」と、「Where there's a will, there's a way.」の実践をお願いしました。この点に関して、一人でも多くの皆さんがコミットできたことを期待したいと思います。

春休み中に、私が感じた「力耕不吾欺」と、「Where there's a will, there's a way.」の実践についてお話したいと思います。

まず、皆さんと一緒に壮行会を行った全国高校選抜大会について。

九州で行われた自転車競技については、木村君がトラックで全国 3 位、ロードで 6 位という素晴らしい成績でした。宮城県で行われたライフル射撃では、私も応援に行かせてもらいましたが、惜しくも入賞は叶いませんでしたが、年上の選手に交じって、吉田君は大健闘してくれました。自転車競技部の活動については、昨年も何回か報告させていただきましたが、特に印象に残っているのは、夏場、近くの取手競輪場で行われた県の自転車競技選手権大会での、40 度を超えるような劣悪な条件のもとでの力走でした。いよいよ「いきいき茨城ゆめ国体」が 9 月末から始まります。さらなる高みをめざして、「力耕不吾欺」の実践を継続してください。

それから、先月末に行われた吹奏楽部の第 4 回演奏会。OB の皆さん方を交えての素晴らしい音楽を聴かせてくれました。特に、第 1 部は現役の皆さんだけのステージでした。部長の秋元さんも話してくれましたが、少人数だけれども一生懸命定演に向けて頑張ってきたとの言葉。想像してもらえばわかるように、人数が少なければ、一人一人のミスは目立ってしまいますが、彼らの演奏は、それを微塵も感じさせない素晴らしいものでした。演奏の途中で涙が出てきました。少し専門的になりますが、完全 5 度、4 度が素晴らしかったです。日頃のロングトーン、リップスラーの練習の賜です。本当に素晴らしい音楽を作ってくれました。ここにも「力耕不吾欺」の実践があります。

ところで、最初に、新しい年度という話をしました。この 5 月から元号も「令和」となります。しかしながら、元号が変わっても、私たちにとって変わらず大事なことがいくつかあります。

私は、大学時代の大先輩の年賀状を大事に持っています。今日、ここに持って来ました。

途中略しますが、「不易を追いましょう 不易を」と結ばれています。

不易流行、「不易」はいつまでも変わらないこと、「流行」はその時々に応じて変化すること、ですが、やはり、変えてはいけないものがあると思っています。例えば、過日離任式がありました。松本先生は感謝の気持ちを大事に、と仰っていました。それから、亀田先生は人格を磨こう、と力説されていました。いずれも人として大事なことを、これからも皆さんに続けていって欲しいという願いです。

例えば「ありがとう」、「ごめんなさい」が素直に言えること、それから、日々のあいさつができること。今朝も元気な「おはようございます」を私に送ってくれた生徒さんがいました。とてもうれしいことです。こういった点が、私は「力耕」の根っこの部分であると考えています。

「力耕不吾欺」は、陶淵明の「移居」という二つの詩の最後の部分です。本校とつながりのあった小川芋銭が、請われて書いたのがこの「力耕不吾欺」。どのような思いで筆を執ったのかは想像するしかありませんが、この扁額が校長室に掲げられています。有名な「帰去来辞」の前、彼は、自ら官吏の職を辞したり、妹を亡くしたりと不遇な生活を送っていたようです。その後火事で家を失い、転居した後のことを記したものが「移居」。これが取一精神として受け継がれてきたことの意義を考えてみてください。新年度が、皆さん一人一人にとって、新たな門出となることを期待しています。